

2018 年度 第 5 回 運営委員会 議事録

日 時 : 2019 年 3 月 3 日 (日) PM 1:00~5:00

場 所 : 京都教育文化センター 102 号室

出席者 : 伊藤、川端、黒崎、坂爪、野嶋、花原、ふじい、三田村、武蔵
(あいうえお順)

議 題 :

1. 会員の動向 特になし

2. 会計報告 <花原氏> 別紙参照

花原氏より一般会計報告と四国中国ブロック、京滋ブロック、中部ブロック展の会計報告があった。

3. JARFO 京都画廊 小品展について

・ 6000 枚の DM を、JARFO 京都画廊に 500 枚と各会員に 50 枚配布する。

・ 今回は、1 人当たりの幅を 32 cm 程度 (額サイズで八つ切か太子のタテ程度) に収まれば可とする。

4. オーストラリアお返し展について <武蔵氏>

・ 会 期 : 2019 年 9 月 20 日~11 月 9 日

・ 会 場 : カランドラ地域ギャラリー

・ シンポジウム : サンシャイン・コースト大学にて行われる。

・ 基調講演は武蔵氏、ワークショップは近藤幸氏に依頼した。

・ 出品作品の画像とデータは、統一するため、集めた後、運営委員会で作成する。

・ お返し展出品者は、平面の状態(作品は巻かない)の出品作品と、英語表記のタイトル、作家名及び簡単なコメントを添えて、4 月末までに三田村宅へ集める。
その後、作品画像を統一するため、精華大学にて武蔵氏、伊藤氏、野嶋氏、三田村でまとめて撮影する。

・ 出品要項は、昨年募った出品希望者へ別途配布する、またオーストラリアへの旅行案内を出品者以外にも広く呼び掛ける。

5. マンフレッド・イーガー氏より国際展のお誘いについて <黒崎氏>

- ・ KYOTO 版画がウイーンで国際交流展を企画するなら、サポートをするという提案がマンフレッド氏から黒崎氏宛てに送られてきた。閉会準備中の KYOTO 版画としてどのように対応すればよいか。
 - 今すぐに作品展の提案を KYOTO 版画の会員に問えば、80 名近い参加者が出品を希望する可能性が高い。その場合、実行委員会として企画・準備等の責務を負う事は現実的には難しい。
 - 例えば技法を限定して木版画展とするならば、会の平等性が無くなり、やはり会としての参加はできない。
 - 今の KYOTO 版画を一旦閉会した後、もっと小さな交流展にも参加できるようなシステムが作れた時、新生 KYOTO 版画展実行委員会として参加できることもあるかもしれない。マンフレッド氏にはすぐに版画展は開催できないが、将来作品展が出来るようになれば協力頂けたらありがたいと黒崎氏から伝えてもらう。

6. JARFO 京都画廊 秋の企画展について <野嶋氏>

- ・ 2019 年 9 月上旬に、40 歳以下の作家を対象にグループ展を行う。
 - 先ず参加の呼びかけをし、その後一人当たりの割り当て面積などを算出して出品要綱を作成する。
 - 3 月の総会時に具体的な報告が出来るようまとめる。

7. その他

「京都市京セラ美術館」の貸館説明会の報告 <三田村>

- ・ 2 月 3 日(日)「みやこめっせ」において、現在改装工事が行われている美術館の 2020 年度の貸館申し込み等の説明会があった。

現在工事は順調に進んでおり、2020 年度から一般の貸館事業が開催されることになった。初年度の 2020 年についてはリニューアル特別企画等が企画されているため、使用できる期間もスペースも余りないとの事。2021 年以降については改めて受付される。

- ・ 今までは 2 週間あるいは、3 週間借りられていたところ、全会一律 1 週間のみとされる。
- ・ 利用スペースは今までの半分を 1 単位とし、小さな団体でも借りやすくされる。
- ・ 搬入、搬出時の車両については、駐車スペースの関係から、1 台のみ可とする。

(文責：三田村)